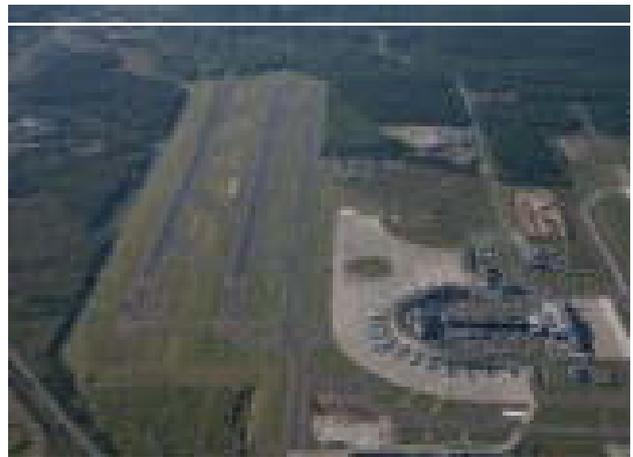


新千歳空港を核とした 観光交流促進プログラム



平成22年11月
新千歳空港利用者利便向上協議会

目 次

1. 観光交流促進プログラム策定の目的	1
2. 地域の観光交流戦略	3
(1) ビジット・ジャパン地方連携事業	3
(2) 観光圏整備事業	3
(3) 北海道の取組み	4
(4) 千歳市観光基本計画	5
(5) 苫小牧の観光	6
(6) 苫東への連絡道路	7
(7) 道央圏連絡道路（一般国道337号）	8
3. 地域の観光促進に新千歳空港が果たす役割	9
4. 新千歳空港に求められる取組み（実施メニュー）	10
5. プログラム推進体制	20

新千歳空港を核とした観光交流促進プログラム

平成22年11月1日
新千歳空港利用者利便向上協議会

●○○ 1. 観光交流促進プログラム策定の目的 ●○○

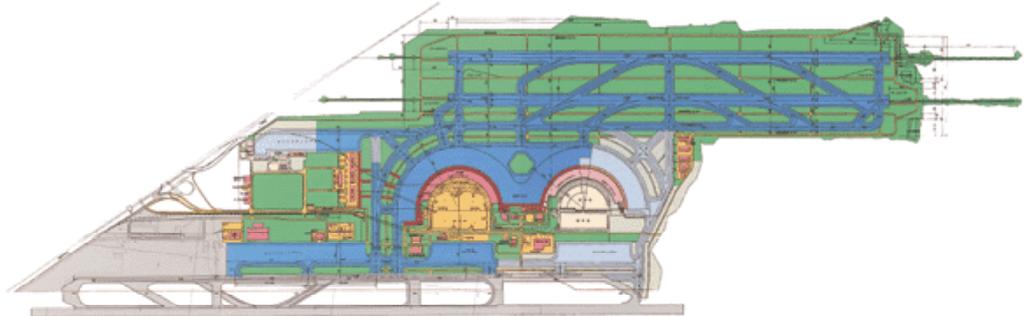
新千歳空港は、国内27路線、国際10路線(H22年11月時点)を有し、年間乗降客数1,600万人を越える北海道の空の玄関である。北海道の自立と発展に資するためには国内外を問わず、観光の誘致が重要な施策であるが、航空機の安定運航・旅客の利便性向上などの点から、改善すべき点も多い。

本プログラムは、関係者が連携を取りつつ、観光交流促進のための施策を総合的に推進することを目的として取りまとめたものである。

《新千歳空港の沿革、整備概要》

新千歳空港は、従来より北海道の空の玄関であった千歳飛行場(防衛庁所管の共用飛行場)の南東に、3,000m滑走路2本を持つ民間専用の空港として建設が進められ、昭和63年7月20日に第1期計画の3,000m(A)滑走路1本を有する第2種空港として供用を開始した。

さらに、第Ⅲ期計画の2本目の3,000m(B)滑走路も平成8年4月26日に供用が開始され、国内航空路線の基幹空港として、また北海道における国際航空の拠点として重要な役割を担っている。



● 概況

- 設置管理者 国土交通省
- 位置 N42° 46' 31" E141° 41' 33" (標点)
- 標高 21.3m
- 面積 719ha
- 着陸帯 A 3,120m×300m (芝)
B 3,120m×300m (芝)
- 滑走路 A 3,000m×60m N7° 22' 43"W (AC: LA-1)
B 3,000m×60m N7° 22' 34"W (AC: LA-1)
- エプロン 664,479㎡ 大型47、中型4、小型7ハース
- 駐車場 116,902㎡ 3,702台 (A・B駐車場)
- 国内線ターミナルビル 154,805㎡ 地上4階・地下1階
国際線ターミナルビル 61,269㎡ 地上4階・地下1階
連絡通路 21,270㎡ 地上3階
- 無線施設 ILS (CAT-1)、NDB、VOR/DME等
- 運用時間 00:00~24:00 (24時間)
- ウインド・カバレッジ 99.1% (15ノット)



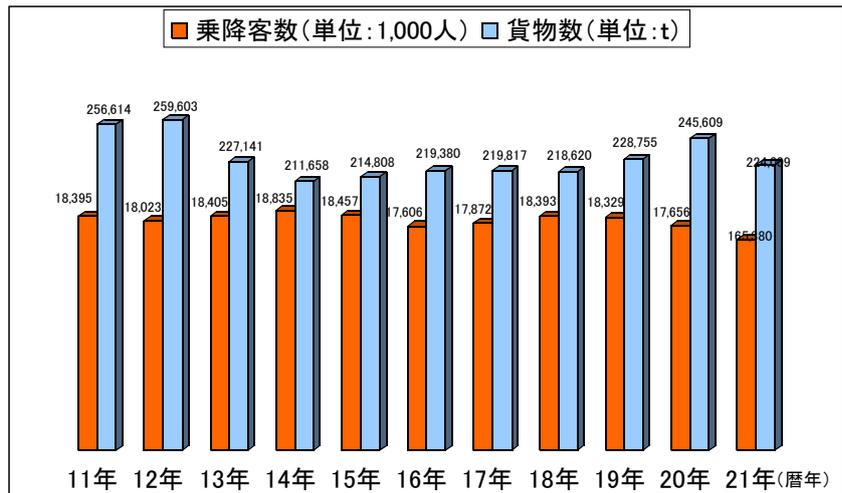
新千歳空港の航空写真(北から南を望む)

● 沿革

- 昭和63年07月20日 新千歳空港開港 (A滑走路供用開始)
- 平成4年07月 新ターミナル地区供用開始
- 平成8年04月 B滑走路供用開始
- 平成11年12月 年間乗降客数1,800万人突破
- 平成18年12月 新千歳一羽田間 年間乗降客数1,000万人突破
- 平成22年03月 新国際線ターミナルビル運用開始

《新千歳空港の利用実績》

平成21年の国内線旅客数は1,500万人を超え、東京国際(羽田)空港、大阪国際(伊丹)空港に次ぐ全国第3位の乗降客数となっている。北は稚内から南は福岡まで全国の主要都市をネットワークし、さらに道内路線の拠点としても重要な役割を果たしている。また、香港、北京、大連、上海、台北、釜山、瀋陽、ソウル、グアム、ユジノサハリンスクの10路線の国際定期便が就航している。



《新千歳空港の立地条件》

新千歳空港は、千歳市と苫小牧市の境界に位置し、背後には、人口190万人(北海道の人口の約3割、全国5位)を擁する政令指定都市である札幌市があり、北海道経済の中心となっている。

また、石狩湾新港から札幌市を經由し苫小牧港湾へと続く経済の大動脈に位置することから、道内各地へのアクセスも充実している。

- JR快速エアポート 新千歳空港から15分毎に出発。36分で札幌駅に到着
- バス 新千歳空港から10~15分毎に出発。1時間10分で札幌に到着
- タクシー・レンタカー 新千歳空港から札幌市内へは約60分、約45Km(高速道路使用)

新千歳空港から道内主要都市までの距離及び所要時間

- | | | | | | |
|--------|-------|---------|-------------|-------|---------|
| ■ 苫小牧市 | ○JR特急 | 約20分 | ○タクシー・レンタカー | 30km | 約 30分 |
| ■ 小樽市 | ○JR快速 | 約1時間11分 | ○タクシー・レンタカー | 65km | 約1時間30分 |
| ■ 旭川市 | ○JR特急 | 約2時間1分 | ○タクシー・レンタカー | 173km | 約3時間30分 |
| ■ 帯広市 | ○JR特急 | 約2時間30分 | ○タクシー・レンタカー | 195km | 約4時間00分 |

(位置図)



●○○ 2. 地域の観光交流戦略 ●○○

北海道をはじめとして、地元千歳市・札幌市などの観光振興計画等の中でも、空港に関しては、下記のような施策が求められている。

- ・ 長距離国際線対応の空港施設の充実
- ・ 航空路線網の充実
- ・ ユニバーサルデザインの推進
- ・ 観光案内・情報提供の充実
- ・ 外国語表記の案内板設置

(1) ビジット・ジャパン地方連携事業

●ビジット・ジャパン地方連携事業



国家政策の柱として、観光立国を実現し、2013年までに訪日外国人1,500万人とする訪日外国人3,000万人プログラム第1期目標の達成へ向けてビジット・ジャパン（VJ）事業を官民一体となって展開している。

プロモーションの概要

1. 海外旅行博への出展
2. 海外メディア、エージェント等を招請し、夏のドライブ、冬のスキーなど北海道観光の魅力をPRし旅行商品造成を支援
3. マルチメディアを活用した海外での効果的なPRの実施

(2) 観光圏整備事業

●観光圏整備事業

観光客の宿泊旅行回数・滞在日数の拡大を目指し、2泊3日以上滞る滞在型観光を促進する観光圏を形成するため、自治体、観光関係団体、農林漁業団体、NPO等地域の幅広い関係者が連携して地域の活性化を図っている。

平成20年度は富良野・美瑛広域観光圏、平成21年度は知床観光圏、さっぽろ広域観光圏、平成22年度ははこだて観光圏、釧路湿原・阿寒・摩周観光圏が認定され、これらの5観光圏では、今後更なる滞在型観光の定着に取り組み、国際競争力のある観光地づくりを目指している。

滞在型観光への取組み

1. 泊食分離の促進
2. 体験型観光のプログラムの開発
3. 圏内公共交通の整備
4. 連携した観光プロモーションの実施など

(3) 北海道の取組み

<http://www.pref.hokkaido.jp/keizai/kz-ksnko/340-hakusyo/gaiyo-2004.pdf>

●北海道の観光振興の主な事業

■優位性を活かした効果的な宣伝誘致活動の促進

- (1) 道民の道内旅行の促進
- (2) 北海道季節キャンペーン、地域キャンペーン、 など
- (3) 北海道観光のブランド化の推進
 - ・ 地域による観光資源の磨き上げ、観光メニューの開発
 - ・ 各種プロモーション
- (4) 北海道観光の魅力を世界に向けて発信、新たな海外市場の開拓
 - ・ 外国での現地セミナー及び商談会の開催
 - ・ 旅行雑誌、TVでの情報発信

■地域の個性を活かした魅力ある観光地づくり

- (1) 地域観光商品開発促進事業
- (2) 滞在型観光地づくり促進事業
- (3) 体験型観光の推進
 - ・ アウトドア資格制度の運用
 - ・ ファームインなどグリーンツーリズムの推進

■北海道観光の発展をめざした人材育成と受入環境づくり

- (1) 地域観光を支える人材育成セミナーの開催
- (2) 北海道地域限定通訳案内士試験の実施、通訳ガイド育成研修会の実施
- (3) 各種観光施策の立案の基礎資料となる各種統計調査



北海道庁新庁舎（赤レンガ庁舎） 伊 札幌市

●北海道観光のくにづくり行動計画

■計画の位置づけ

観光事業者や観光関係団体、道民、道をはじめとする行政機関など、観光にかかわるすべての者が連携・協働し、知恵を出し合いながら、観光振興に関する施策を総合的、計画的に推進していくため、「北海道観光のくにづくり条例」に基づく基本的な計画として策定

(平成20年3月改訂)

■計画の期間

平成20年度から平成24年度までの5年間

■計画の目標

- ・ 環境と共生する観光
- ・ 地域の資源を生かした観光振興
- ・ 観光振興による地域と経済の活性化

■行動指針

- ① 地域にこだわる 自然環境を生かした取組の促進
- ② おもてなしの心で迎える
- ③ みんながつながる
- ④ 地域の魅力を発信する
- ⑤ 地域経営を意識する



アウトドアスポーツ「ダッキー」 留辺蘂町

写真は、北海道HPより転載

(4) 千歳市観光基本計画

●観光基本計画

■千歳観光が抱える課題

- ・ 立ち寄り型観光からの脱却
- ・ 多様な観光資源や良好な交通アクセスの更なる活用
- ・ 季節による利用格差の少ない安定した観光基盤の確立
- ・ 観光都市としての認識の普及
- ・ 観光都市であるという地域の自覚や意識の向上

■千歳観光の核とすべき4つの資源

- ・ 自然 国立公園支笏湖を中心とした豊かな大自然
- ・ 産業 工場見学など観光資源として活用できる産業
- ・ 国際 海外と直結する空港がもたらす国際性
- ・ 住民 ホスピタリティあふれる地域住民



千歳サケのふるさと館

●基本目標

■周遊型観光の確立

「〇〇へ行く」といった個別の行動から「そこで何ができるのか」「どんなニーズに応えることができるのか」を整理し、様々な行動を喚起する。

目的別に観光資源を分類し、その中の資源間移動を動機づけるべく再構築する。

■都市機能の充実

至便な交通アクセス・良質な自然環境・工場、基地、空港といった各種基盤施設を観光的視点からの整備により活用が可能となる。

- ・ 工場見学を中心とした産業観光の受入
- ・ 空港関連施設を活用しての国際化やコンベンション都市機能の強化

■観光の通年化

冬季観光の入り込みを押し上げ観光を通年化することにより、関連産業の施設と人材の有効活用を促し、安定した観光基盤の確立を図る。

■誘致宣伝・情報提供体制の強化

観光客のニーズに沿ったアプローチとして、単なる観光資源ごとの集客ではなく、観光の博物館的な機能を強化宣伝することで、千歳全体のイメージアップを図る。

■ホスピタリティの醸成

「産業（工場）」「基地」「空港」という特徴とともに、支笏湖をはじめとする良質な観光資源に恵まれており、今後も産業観光や体験観光といった受け入れ体制整備とあわせ、観光地としての高い評価を受けるため、千歳市全体のホスピタリティの醸成を図る。



写真は、千歳市のHPより転載

(5) 苫小牧の観光

● 苫小牧の観光

■ 観光産業の活性化

地域特性を活かした観光振興策を展開し、道内外から観光客を迎え入れ、観光産業の拡大を促進し、地域経済の活性化を図る。

■ 広域交流の拠点づくり

全国・全道大会などの誘致、各種イベント開催及び支援を行うと共に、広域交流拠点づくりを目指す。

■ 自然観光・体験観光・産業観光・食の観光をPR

ウトナイ湖・樽前山など自然に恵まれた自然観光、オートリゾート・カヌー・乗馬が楽しめる体験観光、工業都市として産業を学ぶ産業観光、ホッキ貝・ハスカップを中心とした食の観光を全国に向けPRする。



ウトナイ湖

● 観光振興事業

■ 観光情報提供事業

ホスピタリティを醸成し、観光客に対応できる体制づくりを行う。

- ・道の駅「ウトナイ湖」を活用した観光案内情報の発信

■ 観光宣伝事業

- ・観光PR用写真付き切手シートの作製・販売事業
- ・観光案内用ホームページの充実
- ・道の駅「ウトナイ湖」における地元特産品の販売

■ 観光誘致宣伝事業

- ・首都圏で開催される全国的イベントへの参加
- ・首都圏での観光キャンペーンの実施
- ・四季ごとにイベントを開催し、観光客誘致を促進する
- ・新千歳空港において開催する、地元特産品販売・観光PRイベントを支援する

■ 大会等誘致推進支援事業

各種大会誘致を推進することにより、地域産業の活性化とイメージアップを図る。

- ・各種全国・全道大会等誘致の強化
- ・合宿誘致の強化
- ・各種大会関係団体との連携強化



樽前山



道の駅「ウトナイ湖」



オートリゾート苫小牧アルテン



白鳥アリーナ(通年型屋内リンク)

写真は、苫小牧市HPより一部転載

(6) 苫東への連絡道路 <http://www.tomatoh.co.jp/>

● 苫東への連絡道路

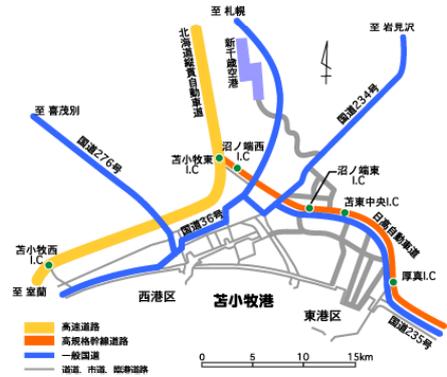
苫東地域は、新千歳空港に近接し、苫小牧港を擁する恵まれた立地特性を有し、地域内に高速道路が走るなど、陸・海・空の交通アクセスに優れ国内外の交通拠点としての発展を目指す。

■ 事業の目的

自然と都市機能を有する産業・技術交流拠点を目指す。

■ 事業概要

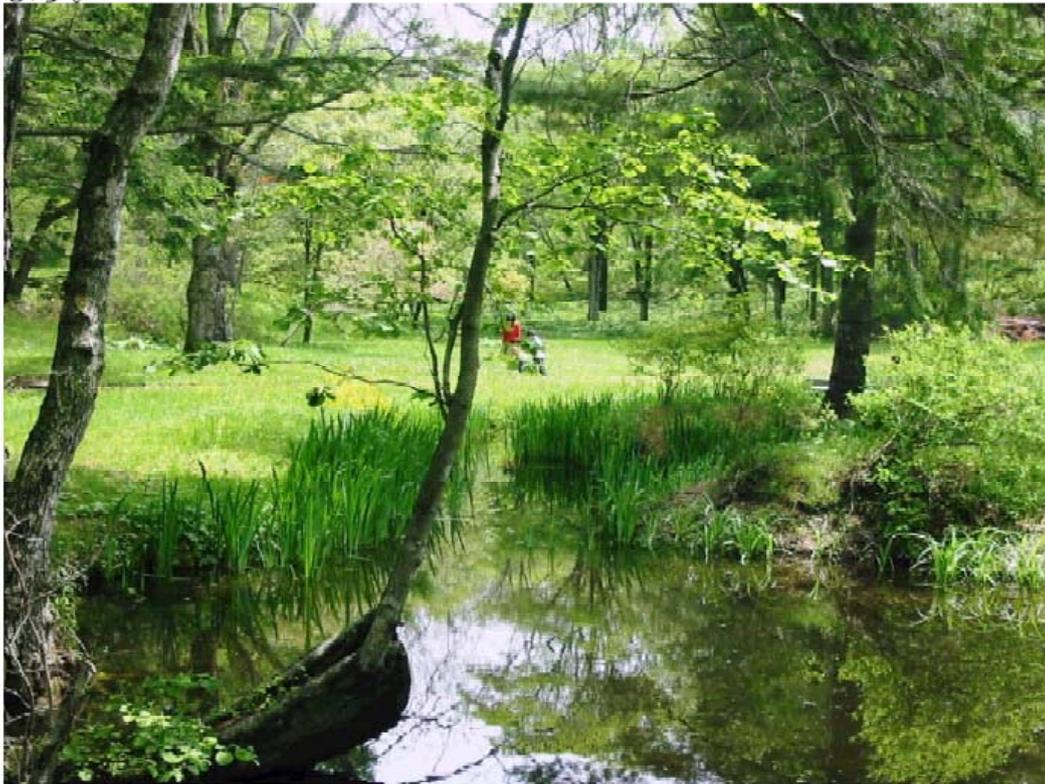
苫東は、北海道縦貫自動車道の苫小牧 I C まで 8 km、札幌市との間を 60 分で直結し、苫小牧東 I C から日高方面へ通じる高規格幹線道路が当地域を横断しています。苫東周辺には国道 36 号線・234 号線・235 号線が縦横に走り、道内各地と陸送が容易であります。



地図・写真は苫東HPより転載

■ 苫東地域の自然空間・・・『つた森山林』 <http://www.tomatoh.co.jp/j/tutamori2.pdf>

平成19年春に、苫東地域内の『つた森山林』において第58回全国植樹祭を開催しました。全国植樹祭は、天皇・皇后両陛下による苗木のお手植え・お手播きを始め、数万人参加による記念植樹・記念行事などが行われる一大行事です。北海道では第12回全国植樹祭以来46年ぶり2回目の開催となります。



つた森山林の池／6月

(7) 道央圏連絡道路（一般国道337号） <http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/>

●新千歳空港間連

■事業の目的

国際的な交流拠点である新千歳空港、特定重要港湾苦小牧港、重要港湾石狩湾新港を結び、札幌圏における人流・物流の連携を図る。

■事業概要

千歳市を起点とし、小樽市に至る延長80kmの高規格道路であり、新千歳空港関連事業としては、平成元年に事業化され、整備が進められている延長約9.2kmの道路である。



千歳空港 I.C

●期待される効果

①渋滞損失時間の短縮

平成14年実績で年間渋滞損失時間184千人・時間の削減

②空港へのアクセス向上

沿線市町村や道東地区から新千歳空港へのアクセス向上

③特定重要港湾及び重要港湾へのアクセス向上

新千歳空港関連の整備により、特定重要港湾苦小牧港、特定重要港湾石狩湾新港、小樽港へのアクセスが向上する

④地域開発プロジェクト等の支援

千歳市では、千歳科学技術大学を中心とする「ホトニクスバレー・プロジェクト」やJR南千歳駅前の「千歳オフィス・アルカディア」などの地域プロジェクトが展開されており、道央圏連絡道路沿いには千歳流通業務団地があり、これらの地域プロジェクトや拠点開発を支援する。

⑤主要な観光地へのアクセス向上

「千歳サケのふるさと館」が立地し年間20万人以上、航空自衛隊が千歳基地で開催する「航空祭」に10万人が訪れるなど、新千歳空港関連の整備によって、主要な観光地へのアクセスが向上する



供用部分



写真及び図は北海道開発局HPより転載



3. 地域の観光促進に新千歳空港が果たす役割



地域の観光戦略を踏まえ、観光交流を促進させるため、新千歳空港に求められる役割及び、関係者において実施すべき事項を下記のとおり整理した。

(1) 空港における航空サービスの向上

- ① 国際線ターミナルの混雑解消等
- ② 就航率の向上
- ③ 冬期間における定時運航の確保に向けた対策の検討
- ④ 搭乗手続の簡素化
- ⑤ 国内線ターミナルの混雑解消
- ⑥ 診療所の休日対応
- ⑦ 利用者意見の反映

(2) 空港アクセスの充実

- ① アクセスの定時性確保・時間短縮
- ② 公共交通アクセスの充実

(3) 情報化の有効活用

- ① 運航情報の周知方法の改善
- ② アクセス情報の周知方法の改善
- ③ 観光情報の提供

(4) ユニバーサルデザイン

- ① バリアフリーの促進
- ② 案内表示等の改善
- ③ 外国語表示等の充実

(5) 空港を核とした地域づくり

- ① 空港周辺への滞在の促進
- ② 空港周辺プロジェクトの推進
- ③ 国際的イベントのPR等
- ④ 外国人観光客の誘致
- ⑤ 観光圏整備事業
- ⑥ 空港の利用促進に関する市民参加
- ⑦ 北海道を舞台とする映画等のロケーション支援・誘致

本表においては、施策及び課題として整理された各テーマごとに、考えられる施策事例の案等をメニュー案として整理しています（一部、既に実施中のものも含んでいます）。

今後、空港関係者がここに整理された事例の案等を参考に、連携して航空サービスの質の向上施策に取組み、新千歳空港を地域の活性化や国際交流の促進の核として活用し、観光交流促進に寄与していくことが重要な課題です。

(1) 空港における航空サービスの向上

① 国際線旅客の利便性向上等

取り組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ C I Q体制の充実 ・ 長距離国際線の安定運航を目指し、滑走路延長などハード面やソフト面を含めた総合的な施策を検討する ・ 深夜・早朝時間帯（22時から翌朝7時まで）の発着枠の拡大 ・ 海外に北海道の観光情報を積極的に発信
取り組みが求められる理由	<p>新千歳空港の利用促進と利便性向上のため、国際線旅客の対応や利用客の増加、C I Q体制の充実のための検討が求められている。</p> <p>また、地理的な優位性を生かして、利用を促進するための観光情報を積極的に発信することが求められている。</p> <p>更に、北海道への観光客の増加が見込まれる東アジアなどの地域からの誘客を促進するため、中国など一部航空会社の航空機の乗り入れ制限の緩和が求められているほか、現在1日6回に制限されている深夜・早朝時間帯の発着枠の拡大について求められている。</p> <p style="text-align: center;">写真はKLM HPより転載</p> 
実施スケジュール	平成14年～
予想される効果	国際線旅客の対応および利便性向上による利用客の増加
取り組み主体	<p>（主務機関）東京航空局・北海道開発局・北海道・地方自治体 ・ 道経連・道商連・北海道観光振興機構</p> <p>（関係機関）北海道運輸局・防衛省・航空会社・空港ビル・ 函館税関・札幌入国管理局・小樽検疫所</p>

② 就航率の向上

取り組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・滑走路の双方向フルILS化 ・ILSの高カテゴリー化
取り組みが求められる理由	欠航の解消及び定時性の確保が求められている。
実施スケジュール	平成20年～
予想される効果	就航率の向上及び定時性の確保による旅客利便性の向上及び利用客の増加
取り組み主体	(主務機関) 東京航空局・北海道開発局 (関係機関) 航空会社

③ 冬期間における定時運航の確保に向けた対策の検討

取り組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪体制の検討 ・デアイシングエプロン ・機能性向上舗装材の検討
取り組みが求められる理由	冬期間降雪時における遅延・欠航を軽減することが求められている。
実施スケジュール	平成19年～
予想される効果	定時性の確保および利便性の向上及び利用客の増加
取り組み主体	(主務機関) 東京航空局・北海道開発局

④ 搭乗手続の簡素化

取り組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・搭乗手続の電子化を推進 ・携帯電話及びインターネットを活用した搭乗手続推進 ・入場ゲートを増設し手荷物検査待ち時間の短縮
取り組みが求められる理由	航空機利用者の搭乗手続に掛かる時間を短縮し、航空機利用の利便性を向上させることが求められている。
実施スケジュール	平成16年～
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加
取り組み主体	(主務機関) 航空会社・空港ビル

⑤ 国内線ターミナルの混雑解消

取り組み内容・目標	・出発ロビーの増床
取り組みが求められる理由	国内線の混雑を解消するため、乗降方法等の利用形態を検討し出発ロビーの増床を図ることが求められている。
実施スケジュール	平成17年～
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加
取り組み主体	(主務機関) 空港ビル・航空会社

⑥ 診療所の休日対応

取り組み内容・目標	・ 航空機の運航時間に合わせた診療時間の検討
取り組みが求められる理由	乗降客の緊急対応および空港ビル利用時の急患等に対応できるように、航空機の運航時間に合わせた診療時間の延長が求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加
取り組み主体	(主務機関) 空港ビル

⑦ 利用者意見の反映

取り組み内容・目標	・ アンケート調査を実施し、施設整備に反映させる
取り組みが求められる理由	利用者等のニーズを把握し、航空サービスの高度化のための施策に反映させることが求められている。
実施スケジュール	平成17年～
予想される効果	利用者ニーズに合った施設整備による利便性の向上
取り組み主体	(主務機関) 空港ビル・航空会社・東京航空局 (関係機関) 北海道運輸局・北海道・地方自治体・道経連・道商連

(2) 空港アクセスの充実

① アクセス定時性確保・時間短縮

取り組み内容・目標	・ 高速道路から空港へのアクセス利便性の向上 ・ 国道の地域高規格道路整備を促進
取り組みが求められる理由	空港アクセスの時間を短縮し、利用者の利便性を向上させることが求められている。
実施スケジュール	平成15年～
予想される効果	利用者のニーズに合った施設整備による利便性の向上
取り組み主体	(主務機関) 北海道開発局、北海道 (関係機関) 地方自治体

② 公共交通アクセスの充実

取り組み内容・目標	・ 空港利用者のニーズ等調査の結果を踏まえた公共交通アクセスの充実や乗り継ぎ円滑化の検討。
取り組みが求められる理由	新千歳空港は北海道の玄関であり、かつ道内最重要の交通結節点の一つである。 鉄道の乗り入れや多方面へのバス路線の運航等アクセス交通の充実が進められてきているものの、更なる公共交通アクセスの充実や乗り継ぎの円滑化が求められている。
実施スケジュール	平成17年～
予想される効果	利便性向上による利用客の増加
取り組み主体	(主務機関) 北海道運輸局 (関係機関) 空港ビル・空整協・千観連・JR・東京航空局・北海道開発局

(3) 情報化の有効活用

① 運航情報の周知方法の改善

取り組み内容・目標	・ 航空機運航情報の提供手段の充実
取り組みが求められる理由	パソコンや携帯電話、スマートフォンなどのインターネットに対応した端末への情報提供、また空港利用者の動線上必要とされる場所や、飲食店、休憩施設などの入居者に対しても、タッチパネルやTVなど、様々な手段を用い、航空機の運航状況をリアルタイムで提供することで、利便性を向上させることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	最新情報の提供による利用者の利便性向上
取り組み主体	(主務機関) 空港ビル (関係機関) 航空会社

② アクセス情報の周知方法の改善

取り組み内容・目標	・ リムジンバスの情報提供の充実 ・ 駐車場の混雑状況情報の提供 ・ 交通の結節点に国際表示などによる案内板の充実
取り組みが求められる理由	空港利用者の利便性を向上させるため、リムジンバスの情報、駐車場の混雑状況等を携帯電話等のインターネットによる情報提供を充実させることが求められている。 また、外国人利用者の利便性およびホスピタリティー向上のため、ターミナルビル、道路、JR駅等の交通の結節点に国際表示などによる案内板の設置を充実させることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	最新情報の提供等による利用者の利便性向上
取り組み主体	(主務機関) 空港ビル・空整協・千観連・JR・北海道開発局 ・ 地方自治体 (関係機関) 道経連・道商連・北海道運輸局

③ 観光情報の提供

取り組み内容・目標	・到着ロビーインフォメーションカウンター等での観光案内情報の充実ならびに情報提供手段の多様化
取り組みが求められる理由	空港利用者に対し、観光地の情報を提供しサービスの向上を図り、観光需要を増進させることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	観光情報の提供等による観光施設の利用増
取り組み主体	(主務機関) 空港ビル・北海道観光振興機構 (関係機関) 北海道・地方自治体・道経連・道商連

(4) ユニバーサルデザイン

① バリアフリーの促進

取り組み内容・目標	・歩道及び駐車場内へのルーフ設置、駐車場の屋内化（立駐） ・駐車場のヘルプカー配備促進 ・ターミナル施設のバリアフリー化を促進
取り組みが求められる理由	障がい者、高齢者等を含む全ての利用者が利用しやすい施設とするため、各施設のバリアフリー化およびサポート施設の充実を図ることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加
取り組み主体	(主務機関) 函館税関・北海道開発局・空港ビル・空整協・千観連・東京航空局

② 案内表示等の改善

取り組み内容・目標	・ターミナルビル内の案内表示の改善 ・ターミナルビル内の各施設のPR
取り組みが求められる理由	初めて訪れる利用者でも快適に施設を利用できるように、ターミナルビル内の案内表示について、全国的なマニュアル化に合わせ、問題がある表示については改善を図ることが求められている。 また、ターミナルビル内の各施設を、案内表示・インフォメーションカウンター・HP等によりPRすることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	利便性の向上による利用客の増加
取り組み主体	(主務機関) 東京航空局・北海道運輸局・空港ビル・空整協・千観連・JR

③ 外国語表示の充実

取り組み内容・目標	・ 空港ビル内案内標識の外国語表記の充実
取り組みが求められる理由	外国人旅行者の利便性およびホスピタリティー向上のため、空港ビル内の各施設案内表示の外国語表示をさらに充実させることが求められている。
実施スケジュール	随時
予想される効果	外国人利用者の利便性の向上による国際線利用客の増加
取り組み主体	(主務機関) 東京航空局・北海道運輸局・空港ビル・JR

(5) 空港を核とした地域づくり

① 空港周辺への滞在の促進

取り組み内容・目標	・ 空港ビル内のサービス施設、展示物並びにイベント等の充実
取り組みが求められる理由	航空機利用者以外のターミナルビル利用者を増やすため、空港ビル内のサービス施設や展示物の充実を図り、各種イベントを開催することが求められている。  
実施スケジュール	随時
予想される効果	ターミナルビル利用者の増加による消費の増
取り組み主体	(主務機関) 空港ビル

写真は、新千歳空港ターミナルビルHPより転載

② 空港周辺プロジェクトの推進

取り組み内容・目標	・ 空港近接地の優位さを利用した、企業誘致
取り組みが求められる理由	空港近接地の優位性・利便性を生かし空港利用者を増やすために、千歳オフィス・アルカディアへのアウトレットモール関連施設や千歳美々ワールドへの空港関連施設等誘致など、企業誘致を進めることが求められている。 
実施スケジュール	随時
予想される効果	企業誘致による空港利用者の増加
取り組み主体	(主務機関) 地方自治体・道経連・道商連

千歳オフィス・アルカディア

③ 国際的イベントのPR等

<p>取り組み内容・目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際的イベントのPR ・海外の国際旅行博への出展等によるPR ・国際会議の誘致
<p>取り組みが求められる理由</p>	<p>国際線の就航する空港を最大限に生かし、海外からの旅行者を誘致するため、国際的なイベントである「さっぽろ雪まつり」「YOSAKOIソーラン祭り」等を積極的にPRすることが求められている。</p> <p>また、近年利用者がめざましい増加を見せる東アジア地域の中心都市で開催される国際旅行博に出展し、北海道観光のPRを進め、さらに利用者を増やすことが求められている。</p> <p>平成20年7月に開催された「G8北海道洞爺湖サミット」の開催により、国際社会において北海道の優位性や魅力が評価される中、官民一体となったオール北海道の推進組織を通じた積極的な国際会議等の誘致が求められています。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="619 817 1034 1088"> </div> <div data-bbox="1038 817 1385 1178"> </div> </div> <p style="text-align: center;">よさこいソーラン祭</p> <p style="text-align: center;">写真は、札幌市HPより転載</p> <p style="text-align: right;">さっぽろ雪まつり</p>
<p>実施スケジュール</p>	<p>随時</p>
<p>予想される効果</p>	<p>海外からの利用者増</p>
<p>取り組み主体</p>	<p>(主務機関) 北海道・地方自治体・北海道観光振興機構・道経連・道商連</p>

④ 外国人観光客の誘致

<p>取り組み内容・目標</p>	<p>・ビジット・ジャパン地方連携事業の実施</p> 
<p>取り組みが求められる理由</p>	<p>政府は、2013年までに訪日外国人1,500万人とする訪日外国人3,000万人プログラム第1期目標の達成へ向けて「ビジット・ジャパン（VJ）事業を官民一体となって展開している。</p> <p>北海道においては、台湾・香港・韓国・中国・シンガポールなど東アジアを中心に集客促進を図り、北海道経済の活性化に繋げる。</p>  <p>重点市場など4カ国の旅行会社から38名を招請して開催した「北海道観光ビジネス・フォーラム」（2009年7月）</p>  <p>道東を舞台として中国でヒットした映画を活用した北海道への旅行商品共同広告事業（2009年2月）</p>
<p>実施スケジュール</p>	<p>平成15年度～</p>
<p>予想される効果</p>	<p>海外からの観光客の増加</p>
<p>取り組み主体</p>	<p>（主務機関）北海道運輸局 （関係機関）地方自治体・観光団体・企業など</p>

⑤ 観光圏整備事業

<p>取り組み内容・目標</p>	<p>・平成21年度におけるさっぽろ広域観光圏の取り組み</p>
<p>取り組みが求められる理由</p>	<p>観光客の宿泊旅行回数・滞在日数の拡大を促進し、2泊3日以上の滞在型観光が可能な魅力ある観光地の形成と地域の活性化が求められている。</p> <div data-bbox="844 461 1166 719" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="932 730 1082 757">滞在型周遊バス</p> <div data-bbox="844 797 1177 1037" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="815 1055 1203 1081">さっぽろ広域観光圏満喫1ダースツアー</p>
<p>実施スケジュール</p>	<p>平成21年度～</p>
<p>予想される効果</p>	<p>海外・道外からの観光客の増加</p>
<p>取り組み主体</p>	<p>(主務機関) 北海道運輸局 (関係機関) 地方自治体・観光団体・農林漁業団体など</p>

⑥ 空港の利用促進に関する市民参加

取り組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・シーニックバイウェイ北海道との連携 ・地域の市民等と連携（空の日等）した景観の創出 ・地域自治体と連携したウェルカムボードの整備
取り組みが求められる理由	<p>観光客が到着して初めて目にする景観を、地域の市民と連携し創出するため、行政によるパートナーシップ形成に向け要請することが求められている。</p> <p>また、新千歳空港を訪れた方に歓迎の意を含めたウェルカムボードを設置し、ホスピタリティーの向上を図ることが求められている。</p> <p style="text-align: right;">もつと感動、空はフロンティア</p>  <p style="text-align: right;">9月20日は空の日</p> <p style="text-align: center;">カットは、国土交通省HPより転載</p>
実施スケジュール	随時
予想される効果	利用者に好印象を与え利用者増を図る
取り組み主体	<p>(主務機関) 北海道・地方自治体・道経連・道商連</p> <p>(関係機関) 東京航空局・北海道運輸局・北海道開発局</p>

⑦ 北海道を舞台とする映画等のロケーション支援・誘致

取り組み内容・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ロケーション情報の発信・PR ・制作者等への支援（ロケハン等の協力） ・ロケーション円滑実施のための仕組みづくり 
取り組みが求められる理由	<p>北海道は特色のある気候風土、豊かな自然環境といった映像資源の宝庫であり、映画やテレビドラマの舞台として数多くのロケーションが行われている。</p>  <p>本道を舞台とする映画やテレビドラマなどのロケーションをより一層誘致するため、撮影に協力する地域や施設の情報提等が求められている。</p> <p style="text-align: right;">写真は、北海道ロケーションサービスHPより転載</p>
実施スケジュール	平成13年～ 随時
予想される効果	<p>地域の知名度向上、観光客の増加</p> <p>出演者やロケ隊スタッフの宿泊・飲食や機材レンタルなどに伴う地域の経済効果</p>
取り組み主体	<p>(主務機関) 道内各フィルムコミッション・地方自治体</p> <p>(関係機関) 北海道経済産業局・北海道総合通信局・北海道運輸局・北海道開発局・環境省北海道地方環境事務所・北海道・北海道警察ほか</p>



5. プログラム推進体制



航空サービスは、単なる輸送手段としてのみならず、都市の再生、地域間交流の拡大、地域の振興にとって極めて重要な手段としての機能を有し、経済社会の活性化・国際競争力の向上のための基盤としての役割を果たしている。

さらに、わが国では2010年までに訪日外国人を1000万人にすることを目標に、観光立国実現のための様々な取組みが行われており、航空輸送に対しても重要な役割を担うことが期待されている。

今後、新千歳空港の関係者が、本プログラムで整理された諸施策を一丸となって積極的に推進し、新千歳空港の利用促進をさらに図り航空需要を喚起し、観光交流促進を図っていくことが重要であると考えられる。

(1) 本プログラムの推進にあたって

本プログラムを推進するため、新千歳空港利用者利便向上協議会が中心となり、関係団体と連携して事業の推進を図る。

(2) 関係団体への協力要請

本プログラムを推進するため、新千歳空港利用者利便向上協議会以外の関連する団体等に対し、積極的に協力を要請する。

(3) 本プログラム推進に向けた取り組み

本プログラムの推進に対し、一般市民等の理解と協力を得るため、新千歳空港利用者利便向上協議会主催のイベントや、シンポジウムの開催及びアンケート調査等を実施する。

(4) 本プログラムのフォローアップ

本プログラムの推進状況については、毎年新千歳空港利用者利便向上協議会において、その実施状況を評価し、必要に応じ内容の見直しを行い、地域の観光交流を着実に促進させる。

(5) プログラムの実施機関（新千歳空港利用者利便向上協議会）

【国の機関】

北海道運輸局・北海道開発局・東京航空局・函館税関・札幌入国管理局・小樽検疫所

【地方自治体】

北海道・札幌市・千歳市・苫小牧市

【経済団体】

北海道経済連合会・(社)北海道商工会議所連合会

【関係事業者】

(株)日本航空インターナショナル・全日本空輸(株)・北海道国際航空(株)・

スカイマーク(株)・新千歳空港AOC(キャセイパシフィック航空)・

北海道旅客鉄道(株)・北海道空港(株)・千歳空港給油施設(株)・

札幌国際エアカーゴターミナル(株)・(財)空港環境整備協会・

(社)千歳観光連盟・(社)北海道観光振興機構・千歳地区ハイヤー事業協同組合・

千歳空港レンタカー連絡協議会・(社)北海道バス協会・(社)日本旅行業協会